玉川大学観光学部紀要　第8号　2020年，pp. 31～46

［研究論文］

富山県宇奈月温泉における観光の現状と課題

谷脇茂樹

〈要　　約〉

本研究では，富山県黒部市内にある宇奈月温泉の観光について，統計データの分析と観光客へのアンケート調査結果，そして，2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大に伴い，宇奈月温泉エリアの観光の状況にどのような変化が起きたのかについて，現地の一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局への聞き取り調査の結果をもとに考察した。

2015年3月の北陸新幹線開業効果により，その年の宇奈月温泉の観光客数は急増した。翌年の観光客数は減少したものの，以降は横ばいを続けている。これは，北陸新幹線開業後，宇奈月温泉エリアが首都圏との安定したネットワークを構築している表れでもある。しかし，依然として冬場の閑散期の課題は続いており，宇奈月温泉における観光客の動きそのものは，北陸新幹線の開業前と同様に，富山県内観光客，北陸信越の近隣からの観光客が支えていた。また，アンケート結果からは，宇奈月温泉エリアのまちなかを散策したり，食事・食べ歩きをしたりと，現地で消費を喚起するコンテンツの弱さが浮き彫りとなった。滞在時間を延ばし消費を促し，宿泊につなげていくための温泉地としての魅力創造・再構築が課題といえる。

本稿では，こうした課題を解決するための取り組みとして，①黒部川電源開発によって生まれた宇奈月温泉，黒部峡谷鉄道の歴史的つながりに重きを置いた観光ストーリーの再構築，②温泉街の空間を有効活用して，マルシェやフリーマーケット，チャレンジショップなどの賑わいの創出，③冬場の閑散期対策として，宇奈月スノーパークの魅力アップ，宇奈月の冬の生活を体験する観光商品造成，などについての提案を行った。

キーワード：富山県，黒部市，宇奈月温泉，観光，北陸新幹線

1. はじめに

1-1　研究の背景

2015年3月の北陸新幹線開業は，富山県と首都圏とをつなぐ交通インフラとして大きな経済効果をもたらし，黒部峡谷鉄道（以下，「トロッコ電車」という。）の乗車数や宇奈月温泉の宿泊者数の増加をはじめ，宇奈月温泉エリアの観光に大きな影響を及ぼした。しかし，それ以降，同エリアの観光客の入込は減少傾向にある。その一方で，北陸新幹線の福井県敦賀市までの延伸工事[1)]が進められているほか，2023年には宇奈月温泉開湯100年，黒部ダム完成60年の記念イヤーを迎える。そして，2024年には関西電力黒部ルート[2)]の一般開放も控えており，北陸新幹線開業後4年を経過した2019年の宇奈月温泉エリアの観光動向を調査することは，今後の同エリアにおける観光振興策を検討するうえでも有益である。

所属：観光学部観光学科　受領日　2021年1月11日

1–2　研究の目的と方法

本研究では，北陸新幹線の開業により，①宇奈月温泉エリアの観光客の流れがどのようになっているのか，②観光客の訪問目的，観光行動はどのようになっているのか，を把握することを目的としている。そして，③調査結果を踏まえて，ポストコロナ社会を見据えた宇奈月温泉エリアの新しい魅力に必要なことは何かについて考察する。手法としては，黒部市等が公表している宇奈月温泉エリアの統計データや観光振興計画を整理する。続いて，宇奈月温泉エリアで実施した観光客へのアンケート調査結果をもとに，観光客の現地での観光動向を分析する。また，新型コロナウイルスの影響により，2020年の状況がどのようになっているのかについて現地のDMO（Destination Management Organization）である一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局（以下，「観光局」という。）に聞き取り調査を実施する。

1–3　本稿の構成

第2章では，黒部市等が公表している観光統計，「黒部市観光振興計画」を用いて，宇奈月温泉エリアの観光動向を把握する。第3章では，宇奈月温泉エリアの観光客を対象に実施したアンケート調査結果の分析と，新型コロナウイルスに伴う同エリアの状況に関する聞き取り調査の結果を取りまとめる。第4章では分析の結果を総括するとともに，宇奈月温泉エリアの観光が抱える課題を明らかにし，その具体的な解決策や観光戦略について提案する。

2.　宇奈月温泉エリアの観光振興と観光動向

2–1　宇奈月温泉エリアの歴史的背景と特徴

宇奈月温泉は，富山県北東部に位置する黒部市内に所在する。黒部川電源開発を背景に，1923年に開湯した。宇奈月ダムの建設に伴い，そこで働く工事関係者の宿舎に温泉を引いたのが始まりで，工事終了後に更地となった土地が分譲され，事業者が温泉旅館を建設したことにより，現在の宇奈月温泉の形が作られた。地域内には，中部山岳国立公園内の黒部川上中流にあるV字谷の黒部峡谷をはじめ，宇奈月ダム建設の資材運搬のために利用されていたトロッコ電車がある。トロッコ電車は平均時速16kmで，宇奈月・欅平間の20.1kmを約1時間20分で結び，毎年4月20日から11月30日まで運行している。このトロッコ電車の観光利用などを背景に，その運行と共存・共栄する形で宇奈月温泉は発展してきた。

宇奈月温泉は，もともと宇奈月町内の温泉地だったが，2006年の黒部市と宇奈月町の合併により，現在の黒部市が誕生した。黒部市には，3,000m級の北アルプスから流れ出した水によって作られた扇状地があり，その水が深さ1,000mの富山湾に流れ込む。この「高低差4,000mのロマン」をテーマにした立山黒部ジオパークが2014年，日本ジオパークに登録された。翌2015年の北陸新幹線の開業により，東京と黒部宇奈月温泉間が2時間20分で結ばれ，それまで減少傾向にあった観光客が一時的に増加する契機となった。2023年には宇奈月温泉の開湯100年が，そして，2024年度には関西電力黒部ルートの一般開放が予定されていることなどからも，話題を追い風にして宇奈月温泉の魅力を再創造し，観光客の誘致につなげていくことが地域の重要な課題になっているといえる。

2–2　宇奈月温泉エリアの観光動向

北陸新幹線の開業は，黒部市や宇奈月温泉エリアと首都圏とのつながりを深める大きな契機となっている。図1は，北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の開業時からの乗降客数の推移を示したものである。

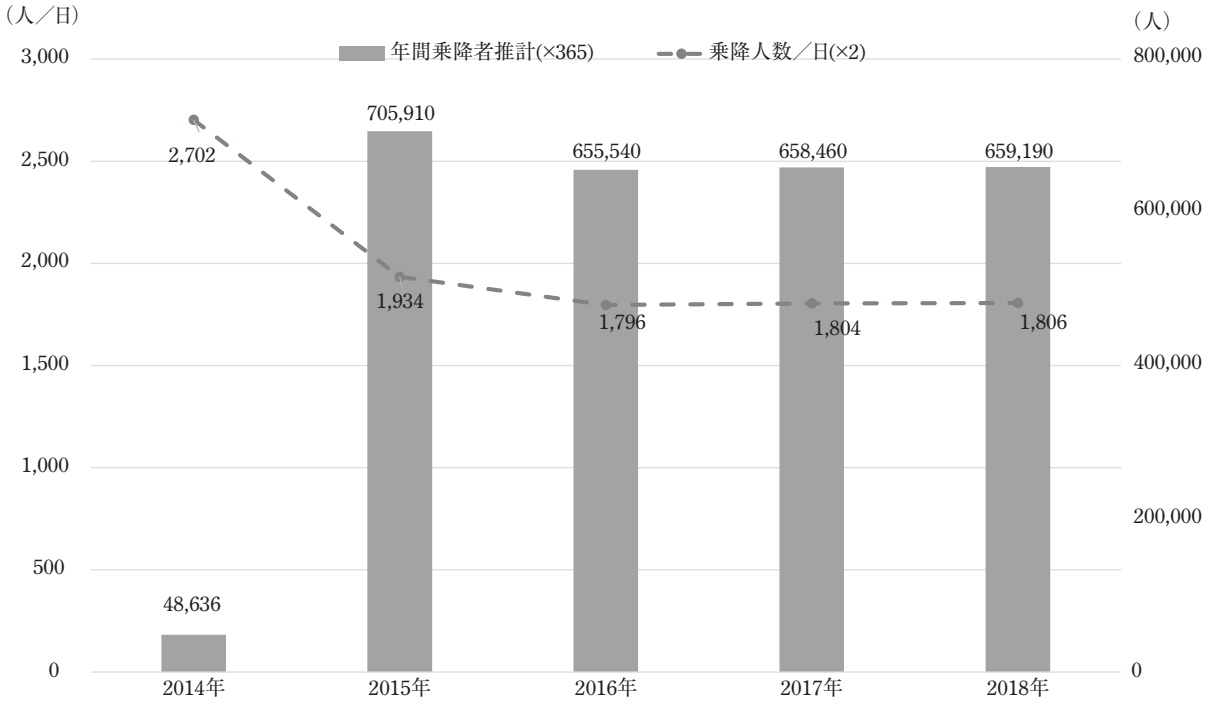

図1　北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅における年間乗降者数の推移

出所：黒部市役所[3)]

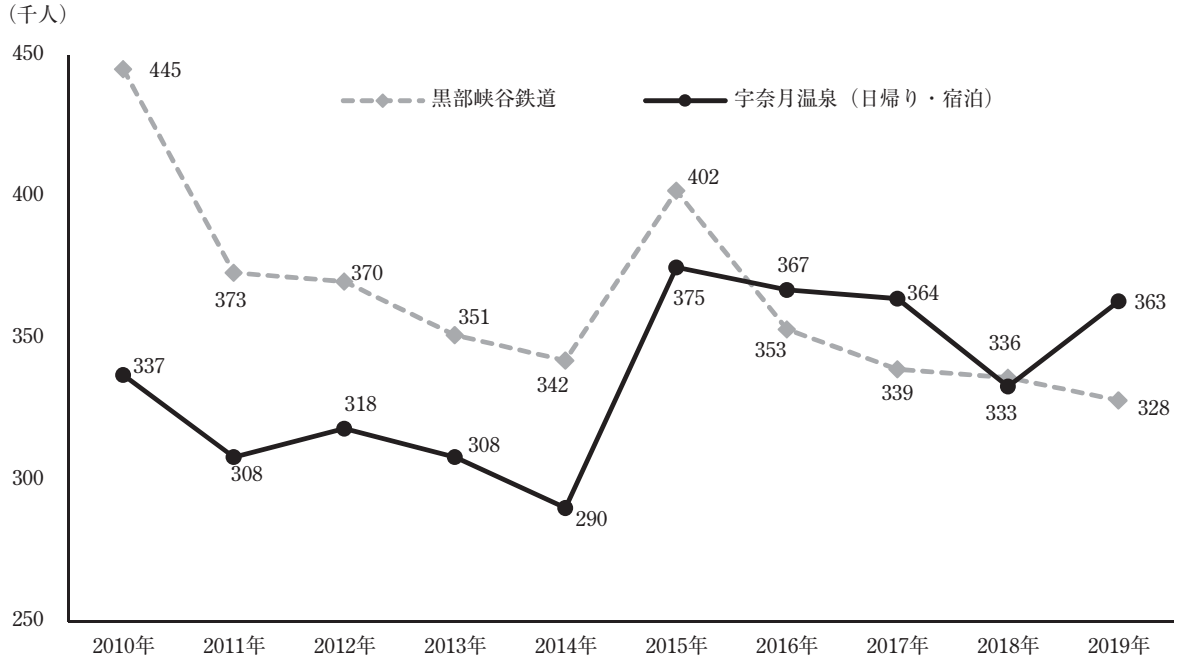

図2　黒部峡谷鉄道（トロッコ電車）と宇奈月温泉の観光客数の推移

出所：富山県観光・交通振興局観光振興室，（公社）とやま観光推進機構「富山県観光客入込数等」より作成

開業年である2015年の705,910人をピークに，翌2016年は前年比7.1％減の655,540人となったものの，2017年は前年比0.4％増の658,460人，2018年は前年比0.1％増の659,190人と，微増を続けている。

次に，宇奈月温泉とトロッコ電車の観光客数の推移をみると，北陸新幹線開業前は共に減少傾向にあったが，2015年の宇奈月温泉観光客数は前年比29.3％増の375千人，トロッコ電車は前年比17.5％増の402千人に増加し，北陸新幹線の開業効果を享受することができた。しかし，トロッコ電車の観光客数については，翌2016年に前年比12.2％減の353千人まで減少し，2017年以降も減少を続け，北陸新幹線開業前の2014年の観光客数を下回っている（図2）。

一方で，宇奈月温泉の観光客数も2016年に前年比2.1％減の367千人となった。トロッコ電車ほどの落ち込みはないものの，以降も減少傾向にある（図2）。現在，宇奈月温泉には15軒のホテル・旅館が営業しているが，そのうちの1軒が2017年12月1日から改装工事に入ったこと（2019年3月1日にリニューアルオープン），さらに，2019年には台風19号の被害により，北陸新幹線が一時運休となったことを考えると，2016年以降はほぼ横ばいで推移しているといえる。

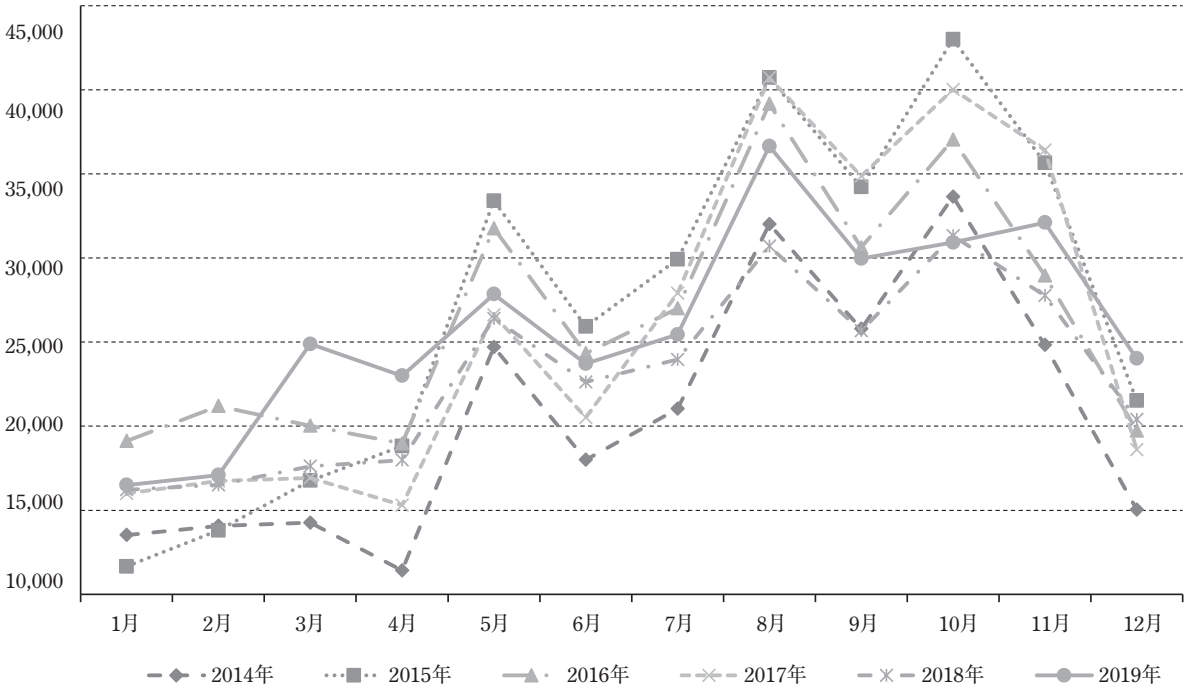

図3　宇奈月温泉の月別宿泊者数（人）

出所：（一社）黒部・宇奈月温泉観光局

図3は，2014年から2019年までの宇奈月温泉の旅館宿泊者数を月別にみたものである。このグラフからもわかるように，宇奈月温泉の場合，トロッコ列車が開業する5月から11末までが繁忙期となっている。一方で，12月から4月までが閑散期，さらに，梅雨の時期でもある6月が落ち込む傾向にある。2015年以降も12月から4月は閑散期となっているが，同時期の宿泊者数は北陸新幹線開業前の2014年と比べると増えていることがわかる。

図2のデータをもとに，宇奈月温泉とトロッコ電車の観光客数の関係をみると，2010年から2014年までが高い相関関係にあったが，2015年以降はその関係に変化が生まれている。これは，トロッコ電車の運行のない宇奈月温泉の冬場の閑散期に，首都圏を中心に徐々にではあるが，観光客が来るようになっていることから生じている状況といえる。

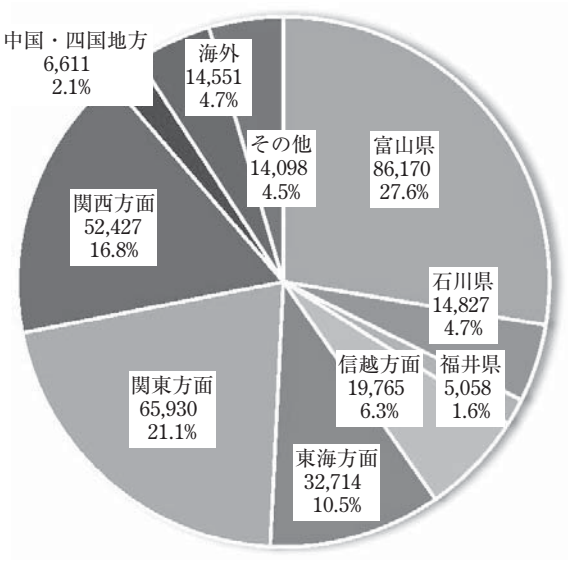

図4　宇奈月温泉宿泊者の地域別比率（2019年）

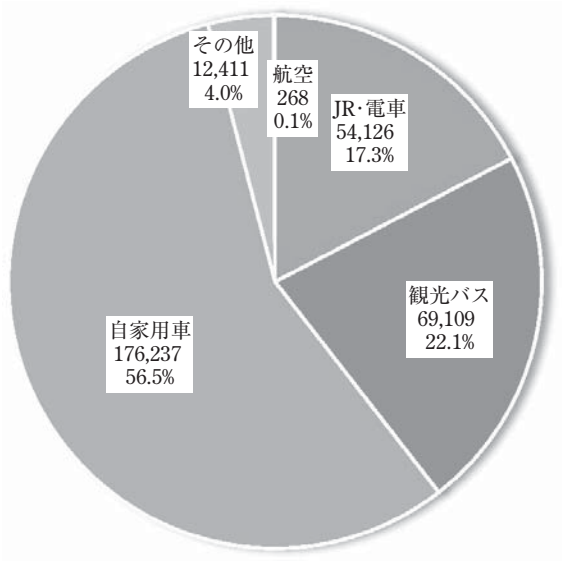

図5　宇奈月温泉宿泊者の利用交通機関（2019年）

出所：宇奈月温泉旅館組合観光動態調査報告（旅館組合加盟10館のみ対象）より作成

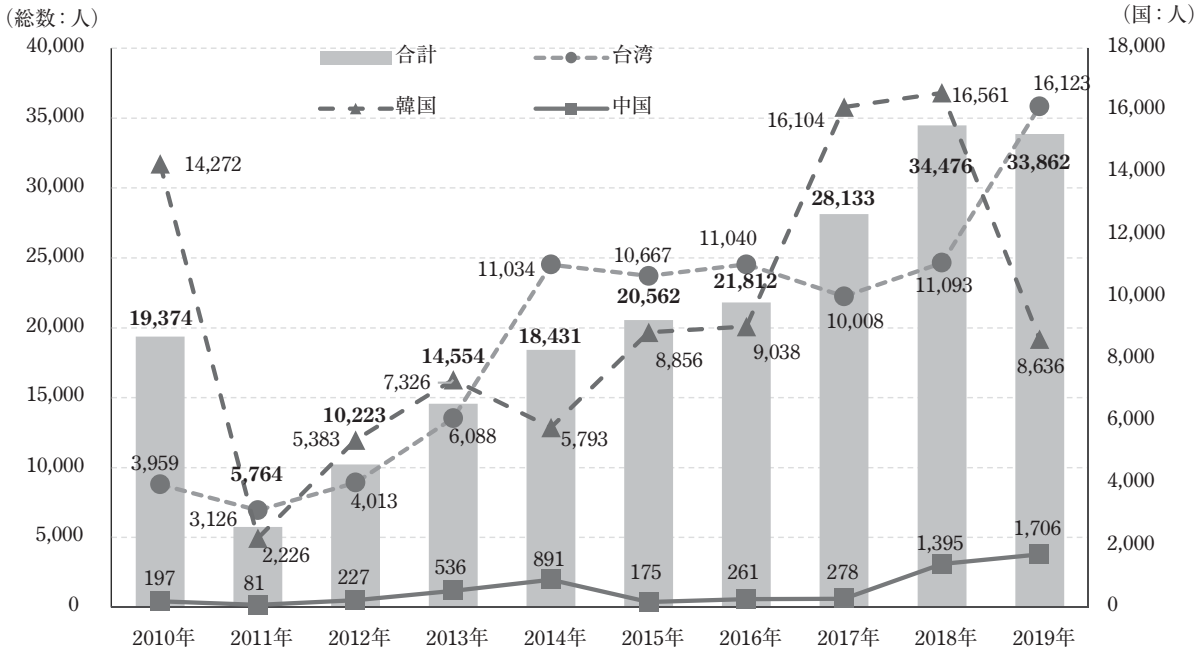

図6　黒部峡谷鉄道（トロッコ電車）の訪日外国人観光客数の推移

出所：黒部市役所

なお，宇奈月温泉の宿泊者の動向については，依然として富山県内を含めた北陸3県が最も多く，2019年実績では全体の33.9％となっている（図4）。これに信越・東海からの宿泊者を含めると，宿泊者全体の50.7％（160,534人）を占めている。一方で，関東方面は全体の21.1％にとどまっている。紅葉シーズンの10月に台風19号の被害があったこともあるが，まだまだ誘客していける可能性は高い。図5は，2019年の宇奈月温泉宿泊者が現地まで利用した交通機関の割合を示したものだが，自動車が176,237人（56.5％）と最も多く，以下，観光バスが69,109人（22.1％），JR･電車が54,126人（17.3％）になっている。近隣からの宿泊者の多さが，自家用車を利用する宿泊者の割合を上げていると考えら

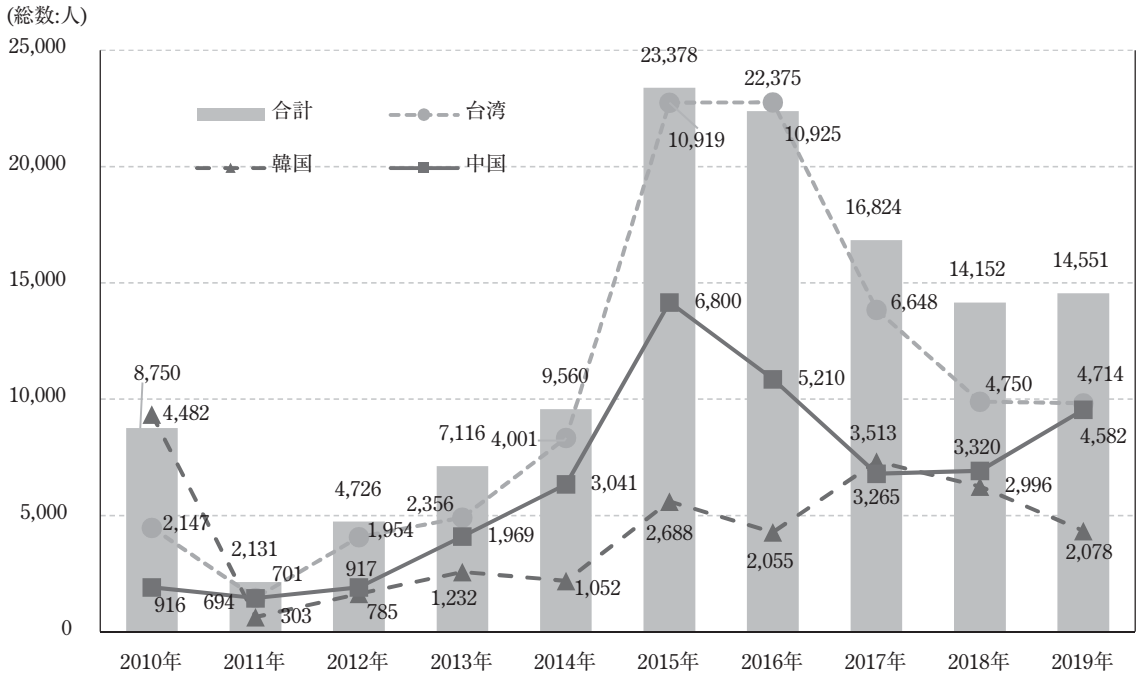

図7　宇奈月温泉の訪日外国人観光客数の推移

出所：黒部市役所

れる。

次に，同エリアにおける訪日外国人観光客の入込状況をみると，トロッコ電車の訪日外国人観光客は増加傾向にあることがわかる（図6）。トロッコ電車においては，国内観光客が減少傾向にある一方で，外国人観光客が増加している。2019年は前年比1.8％減の33,862人と減っているが，日本と韓国の社会情勢により，韓国人観光客が大幅に減少したことに起因することから，両国の関係が改善すれば今後も増加していくことが見込まれる。

一方で，宇奈月温泉の訪日外国人観光客の宿泊状況については，2015年の23,378人をピークに減少傾向にある（図7）。また，台湾，韓国，中国の状況をもとに比較すると，トロッコ電車の利用者と宇奈月温泉の宿泊者が必ずしも連動していない傾向にある。台湾，韓国は，トロッコ電車を目的に宇奈月温泉エリアを訪問しているが，宇奈月温泉には宿泊せずに別の地域に移動する立ち寄り型の観光形態になっていることが想定される。中国は，宇奈月温泉の宿泊者がトロッコ電車の利用者を上回る傾向が見られ，2017年以降，特に宿泊客が増加している。

2-3　宇奈月温泉エリアの観光振興策

黒部市は，2006年の旧宇奈月町と旧黒部市の合併による新・黒部市の誕生に加え，北陸新幹線の開業を見据えて2007年3月，新たな地域の観光戦略として「黒部市観光振興計画」を策定した。そして，この第1次計画をもとに2017年3月，新たに第2次「黒部市観光振興計画：大自然とその四季の魅力を活かし，世界に誇れる観光交流のまち黒部」（計画期間：2017年度から2022年度の6年間）を策定した。この計画では，具体的な数値目標に加え，4つの方針と12の施策が取りまとめられている（表1）。

宇奈月温泉エリアは，温泉，トロッコ電車，黒部峡谷を有していることから，この計画においても重要な位置づけとなっており，2017年の宇奈月温泉宿泊者数335千人に対して，2022年の目標値が350千人に，冬期（12月から3月）の宿泊者数64千人（2017年）を2022年に80千人にするという数値目標が設定されている。計画策定後2年が経過した実績と比較すると，12月から3月までの冬場の

表1　黒部市観光振興計画の施策体系

方針	施策
1. 観光資源の活用	施策1：観光資源の魅力発掘と磨き上げ ①「黒部峡谷」のキラーコンテンツ化
	施策2：冬の魅力づくりによる観光の通年化 ①冬期の魅力創出 ・宇奈月温泉の冬を楽しむイベントの充実 ・宇奈月スノーパークの魅力アップ ・冬の生活体験事業
	施策3：体験・滞在型観光の推進 ①体験型観光の推進 ・宇奈月温泉親水スポットの整備
	施策4：広域観光の推進
2. 外国人旅行者への対応	施策1：受け入れ環境の整備
	施策2：誘客促進
	施策3：国際感覚の醸成
3. 戦略的なPR	施策1：黒部市のブランド化 ①黒部市のイメージの統一 ・宇奈月温泉の価値検証・発信（温泉のブランド化）
	施策2：効果的な情報発信
4. 受け入れ体制の強化	施策1：おもてなしの機運醸成
	施策2：旅行者の利便性向上
	施策3：戦略的に推進するための組織強化

（注）細かい施策については，宇奈月温泉エリアに関するもののみを記載
出所：黒部市「黒部市観光振興計画」（2017年3月），pp.37–47より作成

表2　黒部市観光振興計画に掲げる宇奈月温泉の数値目標に対する実績値

	現状値（2015年）	実績値（2019年）	目標値（2022年）
宇奈月温泉宿泊者数	335千人	319千人	350千人
冬（12月から3月） 宇奈月温泉宿泊者数	64千人	81千人	80千人
宇奈月温泉 外国人宿泊者数	23,378人	14,551人	50,000人

出所：黒部市「黒部市観光振興計画」（2017年3月），pp.37–47をもとに実績値を加えて作成

宿泊者数が目標を上回る結果となっているものの，国内外からの宿泊者数は2015年次から下回っている状況になっている（表2）。

観光振興計画では，日本一のV字峡である黒部峡谷を観光資源としてさらに磨き上げるため，既に実施している「黒部峡谷パノラマ展望ツアー」の魅力向上についての検討や，トロッコ電車の終着駅である欅平駅周辺の利便性向上，宇奈月ダム湖周辺の環境整備，VRによる黒部峡谷体験のサービスなどが盛り込まれている。

宇奈月温泉については，通年観光の実現に向けて，閑散期となる冬期の対策がうたわれている。既に宇奈月温泉では，冬期の振興策として「宇奈月温泉雪のカーニバル冬物語」や，1月から4月までの毎週土曜日に，「宇奈月温泉冬物語・雪上花火大会」などのイベントやライトアップなどを実施しているが，本計画の施策としては既存事業の充実をはじめ，宇奈月スノーパークの魅力アップ，宇奈

月の冬の生活を体験する商品開発などが計画されている。

さらに，宇奈月温泉の来訪者が黒部川の水に触れることができる親水スポットの整備や，宇奈月温泉のブランド化を図るため，温泉の効能等を検証し，温泉を核とした賑わいの創出，魅力をPRする施策などが進められている。

3. 観光動向調査とその結果

3-1　調査方法

本研究では，宇奈月温泉における観光行動を実証的に把握するため，2019年11月2日に，宇奈月温泉エリア（宇奈月温泉駅前，宇奈月駅前，宇奈月温泉街）で観光動向調査（アンケート）を実施した。アンケート調査は，観光客（県内からの観光客を含む）の中から無作為に対象者を選んで，調査者が質問項目に基づいて対象者（回答者）に質問する対面式で行い，210人から回答を得た。

3-2　調査結果

3-2-1　回答者の基本属性

回答者210人のうち男性は95人（45.2％），女性は115人（54.8％）であった。年齢階層別では，20歳未満8人（3.8％），20歳代52人（24.8％），30歳代42人（20.0％），40歳代36人（17.1％），50代34人（16.2％），60歳代以上38人（18.1％）であった。

3-2-2　回答者の居住地

回答者210人のうち県外客は140人で，全体の66.7％を占めていた。都道府県別では石川県の25人（11.9％）が最も多く，以下は新潟県・東京都がそれぞれ22人（10.5％），神奈川県9人（4.3％），埼玉県8人（3.8％），長野県・愛知県・岐阜県が各5人（2.4％）の順であった（4人以下は省略）。なお，都道府県の無回答者は8人（3.8％）いた。

次に地域別[4]にみると，富山県を除く北陸信越地方が55人（26.2％），関東地方51人（21.9％），東海地方13人（6.2％），関西地方11人（5.2％），中国・四国地方5人（2.4％），東北地方と九州・沖縄地方が各1人（0.5％）であり，近隣県の北陸信越地方と，関東地方をあわせると全体の48.1％（101人）を占め，北陸新幹線の開業により宇奈月温泉エリアにアクセスしやすくなった地域からの来訪者が目立った。一方で，北海道からの回答者は得られなかった。

県内客は69人（32.9％）で，このうち富山市が26人と最も多かった。その他は，黒部市が11人，入善町が8人，魚津市・砺波市がそれぞれ6人，射水市4人，高岡市3人，上市町2人，南砺市・朝日町・立山町が各1人であった。呉東地域[5]が県内客全体の79.7％（55人）を占めており，近隣からの来訪者が多い傾向にあった。また，外国人観光客は1人（0.5％）で，国はインドだった。

3-2-3　利用交通手段

宇奈月温泉に来るのに利用した交通手段は，自家用車が147人（70.0％）で最も多かった（図8）。自家用車の割合は県外客・県内客ともに多く，県外・海外客は141人中88人が（図9），県内客は69人中59人が自家用車を利用していた。また，観光客が多い県外地区をみると，北陸信越は55人のうち45人（81.8％）が自家用車を利用しており，鉄道の利用者は7人（12.7％）という結果となった。この傾向は，北陸信越・東海の68人でみても同様で，自家用車の利用は57人（83.8％）とさらに割合が高まっている（表3）。

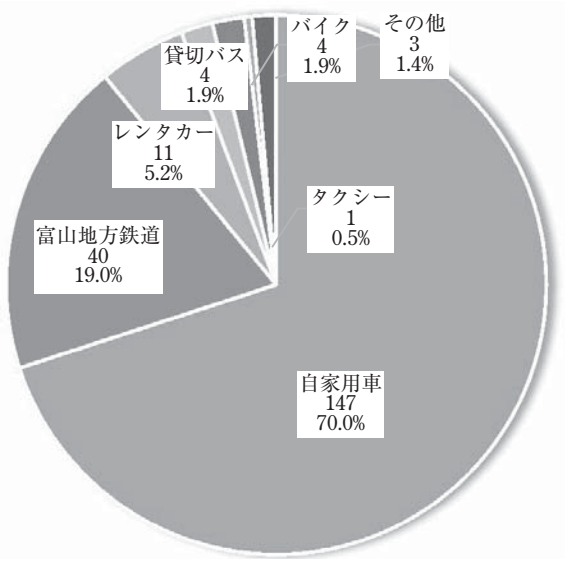

図8　宇奈月温泉までの利用交通機関（N＝210）

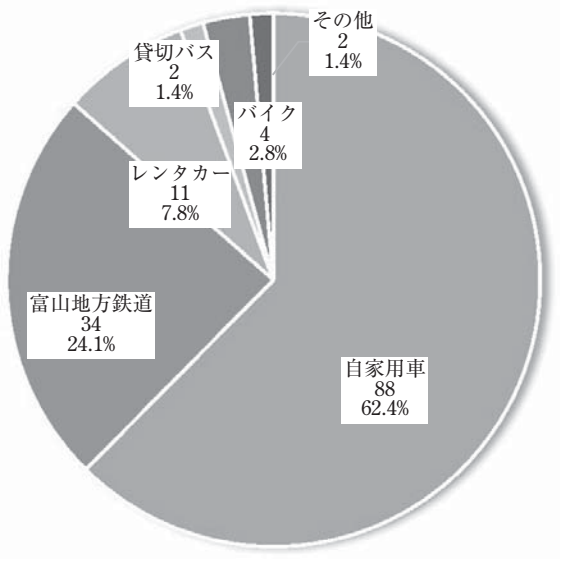

図9　県外・国外客の利用交通機関（N＝141）

表3　地域別にみた宇奈月温泉までの利用交通機関

	全体		関東		北陸信越・東海	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
自家用車	147	70.0%	19	41.3%	57	83.8%
富山地方鉄道	40	19.0%	18	39.1%	7	10.3%
レンタカー	11	5.2%	5	10.9%	2	2.9%
貸切バス	4	1.9%	1	2.2%	0	0.0%
バイク	4	1.9%	2	4.3%	2	2.9%
タクシー	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
その他	3	1.4%	1	2.2%	0	0.0%
合　計	210	100.0%	46	100.0%	68	100.0%

一方で，関東からの46人の観光客をみると，自家用車の利用が19人と全体の割合では41.3％と多いものの，鉄道の利用者が18人となっているほか，レンタカー利用者も北陸新幹線を利用して宇奈月温泉を訪問していた。現地の観光事業者へのヒアリングからも，北陸新幹線の開業による首都圏とのアクセス向上の流れが4年経っても継続していることがうかがえる。

3-2-4　訪問回数

宇奈月温泉への訪問回数は，はじめてが101人（48.1％），2回目が49人（23.3％），3回目以上が60人（28.6％）であった。これを県外・海外の141人でみると，はじめてが92人で65.2％と最も多く，2回目･3回目以上のリピーターは49人（34.8％）だった。一方，県内からの69人は，はじめてが9人，2回目が23人，3回目以上が37人となっており，県内観光客の約9割がリピーターだった。

3-2-5　訪問目的

今回の訪問目的を複数回答で聞いたところ，「トロッコ電車」との回答が138人と最も多かった。次に多かったのが「紅葉を見るため」の111人で，以下「温泉」（73人），「まち並み散策」（27人），「食

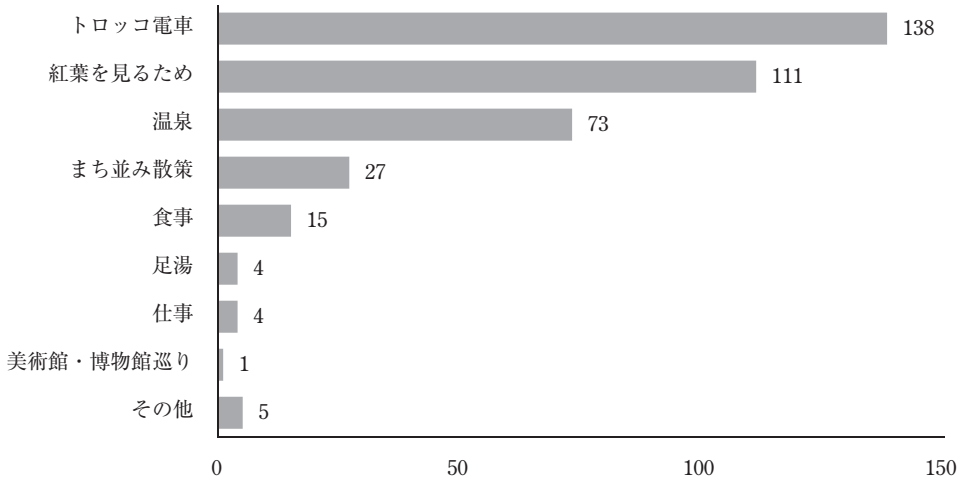

図10　宇奈月温泉への訪問の目的

事」(15人）と続く。また,少数回答ではあったが,「足湯」(4人),「仕事」(4人）という回答もあった。「その他」(5人）の回答は，記念日（2人)，帰省（1人)，友人の案内（1人）だった（図10)。トロッコ電車は毎年4月20日から11月末までの運行ということもあり，例年8月と10月の乗車数が多い。調査日が11月2日の土曜日ということから，トロッコ電車のハイシーズンと重なったことも「トロッコ電車」「紅葉を見るため」を旅の目的とする来訪者が多くなった要因だと考えられる。

3-2-6　宇奈月温泉への宿泊の状況

210人のうち116人（55.2％）は日帰り（56人は県内客）で，94人（44.8％）が宿泊していた。県内客の8割以上が日帰りになっていたのに対して，県外・海外の来訪者は，日帰りが60人（42.6％)，宿泊が81人（57.4％）という結果となった（表4)。宿泊する94人のうち71人（75.5％）が宇奈月温泉に宿泊しており，その他富山県内が20人（21.3％)，岐阜県内2人（2.1％）で無回答は1人だった。

また，県外からの来訪者を地方別にみると，最も回答の多かった北陸信越は，55人の回答者のうち日帰りが33人で宿泊が22人，さらに，東海の13人は日帰りが9人で宿泊は4人と，近隣からの来訪者は日帰りでの訪問が多い傾向にある。一方で，関東からの46人のうち，日帰りは10人で宿泊が36人，そして，関西からの11人をみると日帰り1人に対して宿泊が10人と，来訪者の旅行形態が宿泊中心となっていた。移動距離によって宇奈月温泉における旅行形態が異なる傾向にあることが考えられる（表5)。

表4　宇奈月温泉での宿泊の状況

	全体		県外・海外		県内	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
宿泊	94	44.8	81	57.4	13	18.8
日帰り	116	55.2	60	42.6	56	81.2
合計	210	100.0	141	100.0	69	100.0

表5　地域別にみた宿泊の状況

	北陸信越		関東		東海		関西		東北		九州・沖縄	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
宿泊	22	40.0	36	78.3	4	30.8	10	90.9	0	0.0	1	100.0
日帰り	33	60.0	10	21.7	9	69.2	1	9.1	1	100.0	0	0.0
合計	55	100.0	46	100.0	13	100.0	11	100.0	1	100.0	1	100.0

（注）北陸信越には富山県内からの訪問者は含んでいない。

3-2-7　宇奈月温泉に期待する改善点

宇奈月温泉の魅力向上のために何が必要か，その改善点を複数回答で聞いたところ，「カフェや飲食店の充実」という回答が62人と最も多かった。次いで，「温泉巡りや食べ歩きなどまちの周遊」が59人で，以下，「駐車場の整備」が47人，「空き店舗の削減」が26人，「宇奈月温泉のお得な情報発信」と「浴衣などで歩けるようなまちの雰囲気づくり」が各23人，「Wi-Fi環境の充実」が22人と続く（図11）。回答の多くが，宇奈月温泉街の回遊を望む声であった。このことから，来訪者の多くがトロッコ電車や紅葉を楽しむだけでなく，温泉街での食べ歩きや食事，まち歩きを楽しみたいという意向があることがわかる。また，自家用車を利用する来訪者が多いことから，現地の駐車場の整備を求める声も上位にきていた。

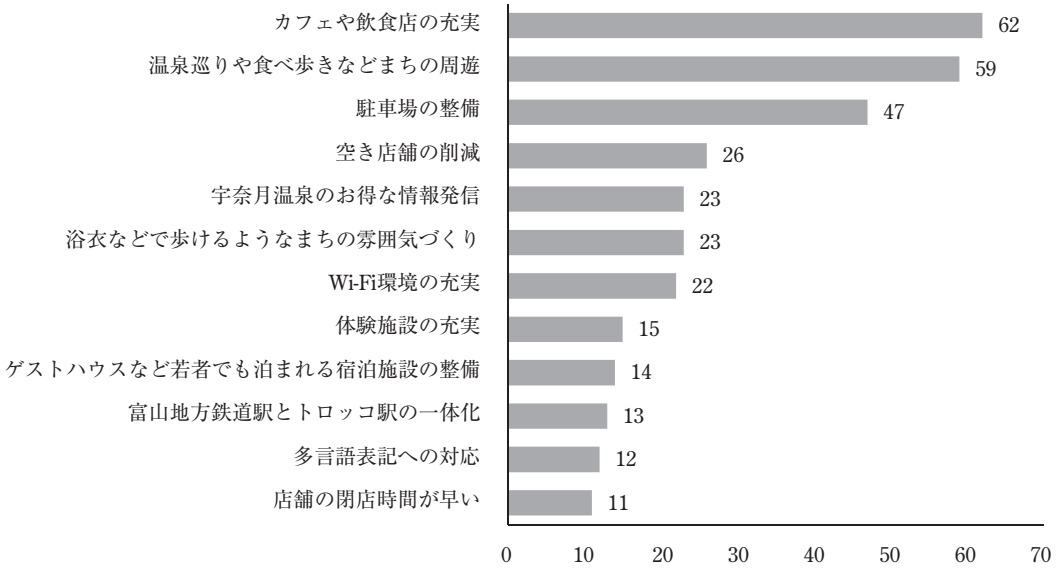

図11　宇奈月温泉エリアに期待する改善点

3-2-8　今後の訪問の可能性

今回の宇奈月温泉エリアでの観光を踏まえ，再来訪の可能性について聞いたところ，「ぜひまた来たい」という回答が126人（60.0%）で，「機会があればまた来たい」76人（36.2%）を含めると全体の96.2%がリピーターとして訪れたいという結果になった。なお，「もう来たくない」は1人（0.5%）いたほか，7人が未回答であった。

3-3　新型コロナウイルス感染症に伴う影響（聞き取り調査）

2020年にパンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症の影響により，宇奈月温泉エリアの観光を巡る環境がどのように変化したのかを把握するため，2020年12月14日，オンラインにより，現地のDMOである観光局営業主任の石田智章氏に，緊急事態宣言後の宇奈月温泉エリアの観光の状況について非構造化による聞き取り調査を行った。

宇奈月温泉エリアは，北陸新幹線開業により，首都圏からの観光客が開業前に比べて増加傾向にある。特に，これまで宇奈月温泉の懸案事項であった12月から4月の閑散期での観光動向に変化が生まれており，「依然として冬期の観光客確保が宇奈月温泉の課題ではあるが，北陸新幹線開業前と比べると，売上，稼働率の面で赤字から黒字に転換している旅館が増えてきている」（石田氏）。こうした中での緊急事態宣言は，地域においてかなりのダメージとなった。ただ，もともと閑散期であった4月に宣言が出されたこともあり，ほとんどの宿泊施設は休館を選択した。宿泊施設の営業再開は6月に入ってからで，トロッコ電車を含めて定員を半分程度に抑えての再開となった。「宇奈月温泉の宿泊施設は団体客向けの施設が多く，食事会場での飲食が基本になるため，営業再開当初は3密（密集，密接，密閉）回避をどのように進めていくのかがネックになっていた。そのため，食事を小皿に分けたり，すべての食事にラップをして提供するなど，スタッフが増やせない中でこれまで以上に労力のかかるサービス対応が必要だった」（石田氏）。

6月中旬から富山県が「富山県　地元で泊まろう！　キャンペーン」[6] をスタートさせた。7月からは国による「Go toトラベル」が，さらに，9月から黒部市が「「がんばる黒部」プレミアム観光クーポン事業」[7]をスタートさせた。「相次ぐキャンペーンにより，高級店を中心に客足が戻るようになり，その後，近隣からの観光客が徐々に増えはじめ，9月中旬以降から売上が出るようになった」（石田氏）。そして，10月から東京都がGo toトラベルの対象に加わったこと，宇奈月温泉の繁忙期である紅葉シーズンが重なったこと，複数のキャンペーンを組み合わせた相乗効果もあり，10月から12月上旬にかけて需要が戻った。値段の高い施設から安い施設へ，週末や祝日に予約が重なり，それが平日にも流れる動きも生まれ，宿泊施設の稼動日・稼動率は，例年に比べても高くなった。「キャンペーンにより，これまでのリピーターではなく，新規の観光客が訪れている。家族連れが多く，新型コロナウイルス感染症の影響か，首都圏からの観光客も北陸新幹線ではなく，自家用車を利用して訪れる」（石田氏）といった，客層や移動手段の変化も生まれている。

一方で，宇奈月温泉では，地域内関係者間の連携意識が高まるなどの効果も生まれている。営業再開後，マスクの着用が必須の接客となったため，観光客にスタッフの笑顔が伝わらないということを問題視する事業者がいた。さらに，新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を観光客にソフトに伝えられないかということで，「Smile Unazuki（スマイル宇奈月）」のロゴマークとピクトグラムを作って，観光客に安心して施設を利用してもらえるよう，温泉街一丸となった取り組みを行っている。10月末現在で宿泊施設，入浴施設，飲食店，販売店，金融機関，鉄道，建設会社，電力会社等55社が参画している。「観光局が2020年1月にDMOに登録されて，地域観光のワンストップとして事業を行う機会が増えたことで，地域内の事業者を巻き込んだ活動を先導していける」（石田氏）ようになり，冬期の閑散期を利用した1時間貸切の「雪見露天風呂」といった，新しい誘客コンテンツづくりに宿泊施設と連動して取り組んでいる。

4.　まとめ

本章では，第2章，第3章での調査結果によりみえてきた課題を明らかにし，その解決策や戦略に

ついての提案を試みたい。

4-1　調査結果の考察

北陸新幹線開業後，宇奈月温泉エリアは首都圏との安定したネットワークを構築している。図1からもわかるように，黒部宇奈月温泉駅の乗降客数は安定して推移している。そしてこの動きは，宇奈月温泉エリアの観光拠点であるトロッコ電車と温泉の状況に変化を生んでいる。

まず，トロッコ電車から整理したい。トロッコ電車はこれまでと同様に，宇奈月温泉の集客において重要な観光コンテンツである一方で，国内需要の落ち込みが目立つ。北陸新幹線の開業により2015年は観光客を増やすことができたが，以降は減少を続けている。訪日外国人観光客の利用者は増加しているものの，国内観光客の落ち込みをカバーするまでには至っていない。加えてこの訪日外国人観光客を宇奈月温泉への宿泊につなげられていない状況になっている。

次に，宇奈月温泉についてである。北陸新幹線の開業と安定的な首都圏とのネットワークにより，依然として厳しい状況にはあるが，冬場の温泉利用客が増え，宇奈月温泉の観光客数は2016年以降，ほぼ横ばいの状態で推移している。しかし，観光客の動きそのものは，北陸新幹線の開業前と同様に，富山県内，北陸信越という近隣からの観光客が支えており，首都圏からの誘客にはまだまだ課題があるといえる。また，観光客への地域サービスの弱さも指摘できる。アンケート結果から，宇奈月温泉エリアには，四季を感じることができる自然・景観，そして，トロッコ電車があるが，まちなかを散策したり，食事や食べ歩きをしたりと，現地で消費を喚起するコンテンツの弱さが浮き彫りとなった。滞在時間を延ばし，消費を促し，宿泊につなげていくためにも温泉地としての魅力創造・再構築が課題といえ，こうした取り組みこそが冬の閑散期対策にもつながると考える。

4-2　宇奈月温泉の観光振興に向けた提案

4-2-1　宇奈月温泉の歴史から導く自然・環境との共生ストーリー

トロッコ電車と宇奈月温泉は，黒部川電源開発によって作られたものであり，自然との共生により今もなお継続している観光地である。この2つの観光資源の歴史的つながりが観光客に伝わるよう，観光ストーリーの再構築が必要である。2024年の関西電力黒部ルートの一般開放は，このことを伝える契機になる。そのため，トロッコ電車を宇奈月温泉と欅平をつなぐ観光列車としてだけではなく，路線内の自然観光・産業観光・電源開発文化・歴史などの魅力を再発見することができるコンテンツとして，着地型観光商品の造成を進めていくべきである。宇奈月温泉には，立山黒部ジオパークのジオサイトがある。そして，温泉街にはEMUというグリーンスローモビリティが走る。自然・環境・電源開発の歴史を観光ストーリーにすることで，エリア全体の魅力が高まるだろう。

4-2-2　温泉街のまち歩き環境の改善

宇奈月温泉エリアの観光を支えているのは，富山県内をはじめとする近隣からの観光客である。四季・自然，温泉という癒しを感じられる宇奈月温泉は，季節ごとにその魅力を観光客に伝えることができる。そのため，温泉街の空間を有効活用して，マルシェやフリーマーケット，チャレンジショップなどの賑わいを創出する仕掛けが必要だと考える。2020年2月に宇奈月温泉駅1階にオープンしたチーズケーキ専門店が話題になったが，宇奈月温泉でしか食べられないもの，できないことを創造していくことが，まちの賑わいを生み，宇奈月温泉の観光を支える近隣観光客のさらなるリピートにつなげていくことができる。

4-2-3　首都圏，中国をターゲットにした冬期の誘客

冬の閑散期対策は，宇奈月温泉にとって重要な課題である。そのため，国内であれば首都圏をターゲットにした誘客が重要になる。北陸新幹線により，東京から乗り換えなしの2時間20分で黒部宇奈月温泉駅に来れるようになった。東京から2時間から3時間圏内は，箱根，日光，草津，伊豆といった温泉地と同等になるだけに，選ばれる温泉地としての魅力作りが求められる。黒部市観光振興計画に盛り込まれている冬期の振興策である既存事業の充実をはじめ，宇奈月スノーパークの魅力アップ，宇奈月の冬の生活を体験する観光商品造成を着実に進めていくことが必要である。

この取り組みは，中国をターゲットにしたインバウンド戦略にもつなげていける。宇奈月温泉エリアのインバウンドは中国からの観光客がまだまだ少ない状況にあるが，富山空港には大連，上海への直行便がある。さらに，ウィンタースポーツによる誘致の可能性もある。2022年に北京冬季オリンピック・パラリンピックの開催を控える中国では，2025年までにウィンタースポーツ人口を3億人にするという計画が発表された。しかし，中国の多くのスキー場は人工雪で雪質が悪く，都市部から離れており，インフラの整備も遅れている。そこで，宇奈月スノーパークの整備を進めることは，中国からの観光客の誘客にもつなげていくことができる。

4-3　今後の課題

2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大は，日本だけでなく世界中の観光地や観光産業に大きな影響を及ぼしている。しかし宇奈月温泉エリアでは，各種キャンペーンを通して，これまでとは異なった新しい顧客層の受け入れにつなげていたり，コロナ禍により，人の移動もより自家用車を選択するという事象も生まれていた。アフターコロナにおける観光地の動向を分析していくうえでも，宇奈月温泉エリアの人流調査・分析を継続して進めるとともに，定期的に現地での観光行動調査を実施することで，同エリアにおける観光の動向を考察していきたいと考えている。

謝辞

本研究を進めるにあたり，2019年度富山国際大学現代社会学部谷脇ゼミ3年生の学生である青木志峰，稲澤克明，犬嶋あいり，姜在禧，北村奈央，黒田春菜，清水美凪，鈴木哲平，塚田健悟，福山陽日，村井咲栄，頼成奈那の12人にアンケートの調査者として，また，その集計作業において協力いただいた。この場をお借りして感謝申し上げたい。

注

1）　国土交通省の「北陸新幹線の工程・事業費管理に関する検証委員会」は2020年12月10日，2023年度末の完成・開業を目指していた北陸新幹線（金沢・敦賀間）は，「工事の逼迫により，1年半程度工期が遅延する見込みである」という中間報告書を発表。

2）　関西電力黒部ルートとは，黒部峡谷鉄道の終点，欅平駅と黒部ダムを結ぶ関西電力の物資輸送ルート。長さ約18kmを，トロッコ電車やエレベーター，インクライン（貨物用のケーブルカー），バスを乗り継いで移動する。2018年10月17日に，富山県と関西電力が「黒部ルートの一般開放・旅行商品化に関する協定」を締結し，2024年度からの実施に向けて準備が進められている。

3）　JR西日本からの提供情報および年間乗降者数（JR西日本からの情報をもとに算出）。各年4月から3月までの計（2014年度は3月14日～3月31日までの計）。

4）　地域別は，北海道，東北地方（青森県，岩手県，宮城県，秋田県，山形県，福島県），北陸信越地方（新潟県，富山県，石川県，長野県，福井県），関東地方（茨城県，栃木県，群馬県，埼玉県，千葉県，東京都，

神奈川県，山梨県），東海地方（静岡県，岐阜県，愛知県，三重県），関西地方（滋賀県，京都府，大阪府，兵庫県，奈良県，和歌山県），中国･四国地方（鳥取県，島根県，岡山県，広島県，山口県，徳島県，香川県，愛媛県，高知県），九州･沖縄地方（福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，大分県，宮崎県，鹿児島県，沖縄県）で分類。

5） 富山県では，東部を呉東地域（富山市，滑川市，上市町，立山町，舟橋村，魚津市，黒部市，朝日町，入善町），西部を呉西地域（高岡市，射水市，氷見市，砺波市，小矢部市，南砺市）と表する。

6） 富山県では，県民を対象に，6月18日から9月30日までに県内の指定宿泊施設に宿泊する際に割引（1人あたり税込1万円以上の場合5,000円割引，税込2万円以上の場合1万円割引）を行うキャンペーンを実施（富山県ホームページ〈http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1401/kj00022175.html〉, 2020年12月27日閲覧）。

7） 黒部市では，2020年9月1日から2021年1月31日までに黒部市内対象施設の宿泊者先着1万人を対象に6,000円分のクーポン券をプレゼントするキャンペーンを実施。当初，富山県民を対象に行っていたが，その後，対象地域を福井県・石川県・長野県・新潟県に拡大（黒部市ホームページ〈https://www.city.kurobe.toyama.jp/news/detail.aspx? servno = 21643〉，2020年12月27日閲覧）。

参考文献

（一社）黒部・宇奈月温泉観光局公式サイト〈https://www.kurobe-unazuki.jp/news/2020/11/11/6302/〉，2021年1月5日閲覧

（一社）立山黒部ジオパーク協会『歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録』（一社）立山黒部ジオパーク，2020年

（一社）立山黒部ジオパーク協会公式サイト〈https://tatekuro.jp/〉，2021年1月5日閲覧

黒部市「まち・ひと・しごと創生黒部市総合戦略～戦略K ～」，2019年

黒部市「黒部市観光振興計画」，2017年

黒部市「統計黒部」〈https://www.city.kurobe.toyama.jp/category/page.aspx? servno = 3263〉，2020年12月26日閲覧

黒部市ホームページ〈https://www.city.kurobe.toyama.jp〉，2021年1月5日閲覧

富山県・魚津市・滑川市・黒部市・入善町・朝日町「富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏整備計画」，2009年

富山県観光・交通振興局観光振興室，（公社）とやま観光推進機構「富山県観光客入込数等」，2015–2020年

（たにわき　しげき）

Current Status and Future Issues of Tourism in Unazuki Onsen, Toyama Prefecture

Shigeki TANIWAKI

Abstract

In this paper, the tourism trends of Unazuki Onsen are considered based on the results of statistical data analysis, questionnaire surveys of tourists, and interview surveys with tourist associations.

With the opening of the Hokuriku Shinkansen in March 2015, the number of tourists at Unazuki Onsen increased sharply that year. Although the number of tourists decreased the following year, it has remained flat since then. This is because the Unazuki Onsen area has built a stable network with the metropolitan area. However, the off-season in winter is still an issue. The tourists who visited Unazuki Onsen were from neighboring prefectures such as Toyama, Ishikawa, Fukui, Niigata, and Nagano just like before the opening of the Hokuriku Shinkansen. In addition, from the results of the questionnaire, it can be said that creating and reconstructing the attractiveness of the Unazuki Onsen area is an issue.

In this paper, in order to solve these problems, three recommendations are discussed. Firstly, creating a tourism story that emphasizes the historical connection between Unazuki Onsen and the Kurobe Gorge Railway based on the development of the Kurobe River power supply, and secondly, holding an event that makes effective use of the space in the hot spring town would be helpful. Thirdly, as a measure against the off-season in winter, proposals such as improving the attractiveness of Unazuki Snow Park and creating products to experience the winter life of Unazuki are discussed.

Keywords: Toyama Prefecture, Kurobe City, Unazuki Onsen, Tourism, Hokuriku Shinkansen